

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・基本Ⅰ (4単位)	3. 科目番号	SNMP1114
2. 授業担当教員	櫻井 恵美		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	介護概論を履修しておくこと。また、医学概論、心理学概論、コミュニケーション論と関連付け学習すること。		
7. 講義概要	介護を要する人たちが、尊厳をもって、日々その人らしく、快適に暮らしていけるように支援するための考え方や技法の習得を目指していく。具体的には、居住環境の整備を中心とし、より良く生活するための意義や目的、生活支援技術の基本を理解し、根拠に基づいた介護が展開できるよう授業を展開していく。		
8. 学習目標	生活支援技術・基本Ⅰが終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。 <ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な住居環境の整備について理解し、工夫することができる。 ・福祉用具を知り、自立に向けた住居環境の整備のために活用することができる。 ・状態の観察の視点と方法を理解し、バイタルサインの測定ができる。 ・ボディメカニクスの理解と活用を行い、適切な活動動作及び介助が行うことができる。 ・体位変換の方法を習得でき、安楽な方法を工夫することができる。 ・生活不活発病を理解することができ、それから発生する具体的な影響について理解できる。 ・異常の早期発見のために必要な視点を理解し、事故発生時の対応ができる。 ・AEDを用いた心肺蘇生法を習得することができ、実践で活用できる。 ・終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持について考えることができる。 ・記録と報告の重要性を理解することができ、常に活用することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：①演習授業の際には、演習記録を記入し必ず提出して下さい。評定に反映されます。 ②第28回授業後「介護職員へのグリーフケアの在り方について」指定用紙1枚に自分の考えをまとめ提出する。 事前・事後学習シートを整理し、提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会『最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規、2022 介護福祉士養成講座編集委員会『最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規、2022 【教材】 ・DVD 白井孝子、櫻井恵美監修『根拠に基づく生活支援技術の基本』中央法規、2015 他 参考書については、適宜授業で紹介します。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1) 介護を要する人たちが、尊厳をもって、日々その人らしく、快適に暮らしていけるように支援するための考え方や技法の習得ができたか。 2) 居住環境の整備を中心とし、より良く生活するための意義や目的、生活支援技術の基本を理解し、根拠に基づいた介護が展開できたか。 ○評定の方法 〔レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する〕 1. 到達度確認試験 (実技試験) 30% 2. レポート 40% 3. 授業態度 30%		
12. 受講生へのメッセージ	「こころとからだのしくみ」「介護概論」と関連付けながら学習し、ただ単に技術(テクニック)を覚えるのではなく、根拠(なぜそうなのか)に基づいた科学的な生活支援技術の習得を行ってください。 ・普段から自分の生活に興味・関心をもって受講して下さい。 ・実技の時は、介護しやすい指定の服装、介護にふさわしい身だしなみで授業に臨むこと。 ・理解できないことをそのまま放っておかないこと。 ・自主的に空いている時間にベッドメイキング等の練習に取り組んでください。 ・演習で使用する物品は大切に取り扱い、準備、片付けまで責任をもって行ってください。 ・演習の習得度によって、一部シラバスの順番を入れ替えることがあります。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。その他については、第1回で説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 「生活支援技術・基本Ⅰ」のねらいと単元の解説、 テーマ「生活支援とは」 生活について理解する。介護の基本原則に則った、 生活支援のあり方について理解する。	事前学習	シラバスを読んでおく。資料および演習ノート用ファイルを用意する。介護の基本原則を復習しておく。
		事後学習	介護福祉士が行う生活支援のあり方について整理する。
第2回	テーマ「加齢に伴う心身の変化と生活の変化」 老化に伴う身体的、精神的変化を理解し、社会的変化について考える	事前学習	加齢に伴う心身の変化について復習しておく。
		事後学習	身近にいる高齢者を観察し、暮らしぶりや日常生活動作を把握する。
第3回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」①	事前学習	高齢者の家庭内での事故について調べておく。

	介護を要する人(特に高齢者)が安心して暮らすために必要な環境の整備を考える。	事後学習	高齢者の居室における環境整備のポイントを整理する。
第4回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」② QOLの向上・安全・快適で自立した生活を維持するための生活環境確保を理解する。 プライバシー空間設営の意義・目的を理解する。	事前学習	高齢者にとってのバリアフリーのメリットとデメリットについて考え、整理しておく。
		事後学習	高齢者の自立した生活を支える環境整備の重要性について整理する。
第5回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」③ 特殊寝台とその付属品について理解する。	事前学習	特殊寝台とその付属品について、福祉用具の種類を確認しておく。
		事後学習	福祉用具が適切に使用できるよう使用上の留意点を整理し、実践できるようにする。
第6回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」④ リネン類のたたみ方と収納の方法を習得する。 演習①マットレスパッド、シーツ、タオルケット、枕カバーのたたみ方	事前学習	寝室や寝具の衛生管理について確認しておく。
		事後学習	リネン類の畳み方、管理についてまとめる。
第7回	テーマ「介護に必要なボディメカニクス」① 介護実践を行う際、介護者の身体機能の活用と対象者の介助における活動において、最小の力で最大の介護実践を行う必要がある。その動作を身につける。	事前学習	身体の部位と名称について確認しておく。
		事後学習	介護者の安全・安心・安楽について考え、今後の演習で実践できるようにする。
第8回	テーマ「介護に必要なボディメカニクス」② 具体的場面・動作におけるボディメカニクスの活用を行う。	事前学習	自分の生活動作の中で、ボディメカニクスが活用されている場面を考える。
		事後学習	ボディメカニクスの原理・原則を整理する。
第9回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」④ 寝心地の良いベッドの作り方を習得する。 演習①ベッドメイキング	事前学習	第6回の授業を振り返り、留意点を確認しておく。手洗いの方法について確認しておく。
		事後学習	心地よい寝床を整えるためのポイント、留意点を整理し演習ノートに記録する。
第10回	テーマ「記録と報告」 記録の意義と目的、授業で使用する記録様式の種類と内容、書き方を理解する。 報告の意義と目的、方法、受け方を理解する。 前回までの演習シートを修正しながら要点のまとめ方、考察の書き方を理解する。	事前学習	第1回の授業での要点を確認しておく。 第9回での演習の内容を確認しておく。
		事後学習	今後の演習ノートの記入において、他者にもわかりやすく記録できるようにする。
第11回	テーマ「安楽と安寧の技法」 介護における安楽の意義、目的を理解する。 介護における安楽の方法を習得する。	事前学習	自分と他者の姿勢の違いについて観察しておく。
		事後学習	生活の中の安楽な姿勢を意識する。
第12回	テーマ「安楽な体位の技法」① 体位の種類と特徴を理解する。安楽な体位と目的を理解する。	事前学習	基本姿勢について調べ、安楽姿勢との違いについて確認しておく。
		事後学習	基本姿勢、基本体位について整理する。
第13回	テーマ「生活不活発病」① ICFの概念と悪循環と良循環について学び、生活不活発病について理解する。	事前学習	ICFとICIDHの違いについて学習(確認)しておくこと。
		事後学習	生活不活発病が高齢者の生活に与える影響について考える。
第14回	テーマ「生活不活発病」② 寝たきり状態で起こる弊害について考え、離床の必要性を理解する。褥瘡のメカニズムを知り、予防の方法と対応について理解する。	事前学習	長時間同一体位で過ごした場合、身体のどの部位に苦痛を感じるか体験する。
		事後学習	褥瘡予防に必要な知識について整理する。
第15回	テーマ「安楽な体位の技法」② 体位変換の方法を習得し、側臥位による安楽な方法を工夫する。その他の体位の安楽な状態を理解する。 演習：体位変換	事前学習	第12回の授業を振り返り、基本体位について確認しておく。
		事後学習	体位変換の介助の留意点とポイントを整理し、演習ノートに記録する。
第16回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」⑤ シーツ交換の方法を習得する。 演習：臥床状態でのシーツ交換	事前学習	第9、11、12、15回の授業や演習ノート等を振り返り、要点を確認しておく。
		事後学習	寝心地の良いベッドメイキングが実践できるようにする。演習ノートに記録する。
第17回	テーマ「安全で快適な住まい・生活環境の整備」⑥ 演習確認小テスト：一人で行うベッドメイキング	事前学習	第1～16回までの授業を振り返り、要点を整理し、実践できるようにしておく。
		事後学習	試験を振り返り、自己評価と点検を行う。
第18回	テーマ「福祉用具の概要と活用の方法」 福祉用具の意義・目的・種類・分類を理解する。 福祉用具の選択の方法と注意点・留意点について学	事前学習	介護保険における貸与・支給福祉用具について調べておく。
		事後学習	介護福祉士に必要な福祉用具の知識について

	習する。		整理する。
第19回	テーマ「移動の介護」 福祉用具を用いて、安全に安楽に移動する技法を習得する。 演習：車いす移動介助、杖歩行介助	事前学習	車いすの各部の名称について調べておく。
		事後学習	移動介護の目的を整理し、移動介助における留意点、介護福祉士の役割を整理する。演習ノートに記録する。
第20回	テーマ「健康状態の観察」 健康状態の観察の視点と方法を理解するバイタルサインの測定の方法を習得する。体温、脈拍、呼吸、血圧の測定。	事前学習	朝・昼・夜の自分の体温、脈拍を計測し、確認しておく。
		事後学習	健康状態の変化を把握するための観察視点と方法について整理する。演習ノートに記録する。
第21回	テーマ「安楽と安寧の技法」 褥法の種類、意義、目的を理解する。 褥法の方法を習得する。 演習：氷枕の作り方と当て方	事前学習	電気毛布、使い捨てカイロの弊害について調べておく。
		事後学習	氷枕の作り方、当て方を整理する。 演習ノートに記録する。
第22回	テーマ「医療対応時の介護」 異常の早期発見のために必要な視点とその対応、事故発生時の応急手当（三角布、包帯などの活用）について理解する。	事前学習	救急車の呼び方について確認しておく。
		事後学習	緊急時における介護福祉士の役割について整理する。
第23回	テーマ「緊急事故時の対応①」 介護と医行為を理解する。安全・安楽な生活を支援する事ができるように日常生活で発生しやすい主な事故を理解する。	事前学習	高齢者の施設において、どのような行為が医療行為なのかを考えておく。
		事後学習	緊急時や日常生活の介護において必要な知識について整理する。
第24回	テーマ「緊急事故時の対応②」 薬剤の基礎知識と服薬方法を理解する。 治療食を食する人に対する介護者としての役割を理解する。	事前学習	治療食について調べておく。
		事後学習	日々の食事や生活上において起こりうる事故について整理し、その対応ができるようにしておく。
第25回	テーマ「緊急事故時の対応③」(救命救急講習(予定)) AEDを用いた心肺蘇生法を習得する。	事前学習	第23回の授業を振り返り、緊急時における介護福祉士の役割を確認しておく。
		事後学習	心肺蘇生法やAEDを用いる際の留意点を整理する。
第26回	テーマ「緊急事故時の対応④」(救命救急講習(予定)) AEDを用いた心肺蘇生法を習得する	事前学習	通学途中や大学構内のAEDの設置場所を確認しておく。
		事後学習	緊急時における介護、医療職の連携について整理する。
第27回	テーマ「終末期の介護」① 終末期における尊厳の保持・事前意思確認等介護の意義・目的を理解する。終末期を迎える利用者の身体面・心理面・家族に対する支援のありかたを理解する。他職種との連携を理解する。	事前学習	緩和ケアについて調べておく。
		事後学習	終末期のケアにおける介護福祉士の役割について整理する。
第28回	テーマ「終末期の介護」② グリーフケアについて理解する。	事前学習	「死」を支えることについて自分の考えをまとめておく。
		事後学習	レポート課題「利用者の死への向き合い方」について自分の考えまとめる。A4用紙1枚。
第29回	実技確認試験 事例を通して生活支援技術の試験を行う。	事前学習	これまでの演習を振り返り、根拠に基づく、安全・安楽・安心な介助が実践できるようにしておく。
		事後学習	試験の振り返りを行い、自己評価と点検を行う。
第30回	生活支援技術、実技試験を振り返り、基本Iのまとめを行う。	事前学習	自己評価・点検を踏まえ、修正・改善できるようにしておく。
		事後学習	事例の介護の根拠、手順、留意点を整理する。
期末試験			